

社会との繋がりを模索する実践的心理学研究

背景・目的

本教育研究課題は、心理行動科学科 1 年次必修科目である「心理行動実践セミナー」および、心理行動科学科合同研究発表会「MG-P スクエア」を核とし、社会との繋がりを模索した実践的な心理学研究を展開するものである。ここでは、本教育研究課題の主要な活動の 1 つとして位置付けられている「MG-P スクエア」について報告する。

「MG-P スクエア」は、2013 年度から開催されている、心理行動科学科主催の合同研究発表会であり、今回で 3 度目の開催となる。この発表会では、本学科に在籍する全ての学生がゼミや学年の垣根を越えて自由に参加・発表を行うことが可能である。研究活動を通じて、本学科がこれまでに取り組んできた、「学科の教員や他の学生との協働による協調性」「一般の方々に対する研究成果の説明による情報伝達のスキル」の育成のみならず、心理学研究が社会へと繋がっていることへの体験的理解を深めることが期待される。

実施内容

1 年生：「市街地における自転車利用の心理学」「義援金を寄付する心理 in 2015 Vol.2」など、「ココロサイコロ 2015」で発表された研究をブラッシュアップした内容の一部を発表した。

2 年生：2 年次の「心理行動セミナー」で実施された研究の一部である「男女大学生における「泣くこと」による心理的变化」を発表した。

3 年生：「写真写りの心理学」「新聞記事の見出しが読み手の印象に与える影響」「女子大学生の友人関係と甘えの関連」など、3 年次の「心理行動セミナー」で実施されたプレ卒業研究の一部を発表した。

4 年生：「長縄跳びの調整機序についてーリターンマップ解析ー」「自己紹介で「人見知りです」がよろしくをお願いします」というのはなぜ？」「引き受けたくない依頼をどう断る？ー上手に断る能力とはー」など、完成して間もない卒業研究の一部を発表した。

その他：「みんなで学ぶ閉上の歴史と文化（閉上プロジェクト）」「3D フェイス作成体験 ～あなたの 3D フェイスが生み出す表情や魅力～（測定体験コーナー）」など、ゼミや学年の垣根を越えて組まれたプロジェクト研究についても発表を行った。



図. MG-P スクエアでの発表の様子

結果及び考察

今回は、前回同様全ての学年から発表のエントリーがあり、ゼミや学年の特色が各々の発表からそれぞれ垣間見られた。その一方で、ゼミや学年を越えたプロジェクトも生まれ、1 つのテーマについて様々な視点からまとめられた研究が発表された。そのうち、前回の発表以降も活動を続けてきた閉上プロジェクトが取材を受け、複数の新聞に記事が掲載されたことは特筆に値する。これらのことから、協働による協調性や情報伝達のスキルの獲得、心理学研究が社会へと繋がっていることを体験的に理解できたことが示唆される。